

小学生における喫煙防止教育について
～授業前後の意識変化に着目して～
村田 龍昭 (生涯スポーツ学科 学校スポーツコース)
指導教員 谷川 尚己

キーワード：喫煙，タバコ，薬物乱用，受動喫煙

1. 緒言

近年，覚せい剤等薬物乱用により補導される青少年の事例が増加とその低年齢化の傾向がみられる。タバコを吸う人だけでなく，その周りの人も悪影響を受けるという受動喫煙にも触れながら，効果的な教育方法を研究したいと考える。

薬物乱用とは，「本来は，病気などの治療に使用する医薬品を医療目的以外に使用，医薬品でない薬物を不正に使用すること」である。1度でも医療目的以外の使用は薬物乱用になる。未成年者は，タバコの危険性に関する情報を十分に与えることが必要である。

薬物乱用の低年齢化が進む今，小学校において薬物に対する正しい知識と断り方を学ぶ必要があると考える。受動喫煙によって健康被害を受けることも含めて，未成年者はタバコなどの影響をより受けやすいことから，工夫した教具を用いて指導する必要があると考えた。

2. 研究方法

大津市立w小学校第6学年，大津市立k小学校第6学年，草津市立y小学校第6学年の計3校から8項目の選択式アンケートを授業前後で実施し，意識の変化を調査する。

3. 結果と考察

家族でタバコを吸う人はいますかという質問では，40%以上がいると答えた。児童は，普段から受動喫煙をしていると考えられる。家族にタバコを吸う人がいてもタバコは，授業前から体に悪いと回答する児童が多かった。男子と女子で差が出たのは，タバコの煙

が嫌だ，自分は吸いたくないという項目だった。他人のタバコの害について多くの児童が理解している。現在は，タバコを吸いたくないが，将来吸うかわからない，吸うかもしれないという児童がいた。タバコの害について本当に理解できていたら将来も吸わないとなると考える。年齢が上がるにつれて，タバコを吸いたいという割合も増えていく。今回は，タバコを吸いたくないという項目で，授業前後の意識が見られた。授業後の児童がタバコを誘われたら断れる，将来タバコを吸わないと思うと多く回答したが，この項目の回答がどちらも断れる，将来吸わないという回答が本当の害の理解であると考え，工夫と継続が必要である。

4. まとめ

タバコは体に悪いものだとして認識している児童が多数だった。授業前後で他人のタバコの煙に害がある，友達も家族も吸わないほうがいいという回答が増加した。男女差がある回答もあったが，授業後はどの項目もタバコの害について理解できているものだった。年齢が上がるにつれて，より専門的で深い内容を継続して授業することが効果をもたらすのではないかと考える。

引用・参考文献

原めぐみほか(2013)喫煙・受動喫煙状況，喫煙に対する意識および喫煙防止教育の効果
http://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/syusseiji/14/dl/h22_kekka.pdf